



Vol. 57

CONTENTS

- 【コラム】 やっぱりプログラミング教育が熱い SSS2015 とジョーシン 2015 秋から… 鈴木 貢
【解説】 オープンソースとオープンスタンダードで創る次世代デジタル学習環境… 梶田 将司
【解説】 アジアにおける IT 人材育成の取り組みについて—情報処理技術者試験の相互認証とアジア共通統一試験—… 伊藤 実夏

COLUMN



やっぱりプログラミング教育が熱い SSS2015 とジョーシン 2015 秋から



情報教育シンポジウム SSS2015 と、高校教科「情報」シンポジウム 2015 秋（愛称：ジョーシン）におけるプログラミング教育関連の講演に関して、報告を兼ねて雑感を述べたい。

SSS2015 は 2015 年 8 月 17 日から 19 日にかけて鳥取県境港市で開催され、ポスター 8 件や新機軸の反転発表 2 件を含む 33 件の発表と、2 つの企画セッションに、85 名の参加があった。

SSS2015 の企画セッションの 1 つは「プログラミング教育」をテーマとして 18 日の 13 時から 3 時間の大枠で行われ、ニコニコ生放送の情報処理学会チャンネルを通したインターネット中継には 1,777 件のアクセスがあった。竹内郁雄氏の講演では、IPA 未踏事業のプロジェクトマネージャとして接した人々の逸話や、早稲田情報科学ジュニア・アカデミーの話が紹介され、きちんと情報科学の基礎を身に付けさせることが重要だと結論した。まつもとゆきひろ氏の講演では、Ruby が国の垣根を越える話を通して、情動的活動の本質がコミュニケーションであると締めくくった。パネルディスカッションでは、勝沼奈緒実氏からはみどりっ子クラブの、高尾宏治氏からは Ruby プログラミング少年団の活動が紹介され、続いて会場も含めて、「プログラミング教育は本当に必要か？」という根源的な話題にも言及しながら熱く議論された。

ジョーシン 2015 秋は、2015 年 10 月 31 日に早稲田大学西早稲田キャンパスにて開催され、「初等中等教育におけるプログラミング学習の広がり」をテーマとして活発な議論を行った。

個別の講演は、「プログラミングは協調的学びのデバイスになり得る（遠山紗矢香氏）」、「最初に教えるべきはコンピュータの根源的な姿（原田康徳氏）」、「プログラミングを通して得られるものを明確に教える立場の人間に浸透させることが一番重要（阿部和広氏）」、「プログラミングは困難を抱えた子の社会への窓（島田悠司氏）」、「プログラミングは IT への窓であり嫌いにならない方策が重要（山本博之氏）」、という内容であった。続くパネルディスカッションでは、情報オリンピックの紹介（谷聖一氏）や、ものづくりを通した問題解決としてのプログラミング能力の育成（天良和男氏）を皮切りに、熱い議論が交わされた。

2 つの企画を通して感じたのは、やはりプログラミング教育は熱いということである。学校の現場では「自分たちが身に付けなくてもやってこられたものと、入試に関係ないものはパス」というムードが充満している。一方で危機感を感じた父兄は、本当の情報教育とともに Computational Thinking への窓としてのプログラミングを子弟に身に付けさせようとしている。かたちがフローチャートであれ、実用プログラミング言語であれ、プログラミングの素養が「読み、書き、ソロバン」になる時代が迫ってきているのだ。

鈴木 貢(島根大学)